

名大「グリーンベルト」

退職後、自宅から近く、学外者にも利用しやすい中央図書館に毎日のように出かけている。最初は自宅に閉じこもり、どうも調子が出なかった。30 数年の間、研究室通いを続けていたので、生活のリズムが変調を来したようだ。名大中央図書館に通うようになって、昔ながらの調子が出てきた。ありがたいことだ。

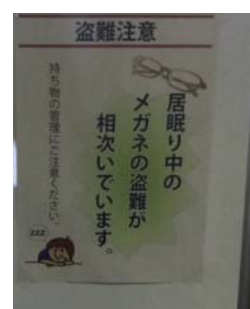
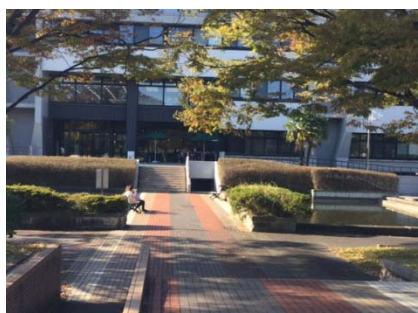
地下鉄で星ヶ丘から本山まで行き、本山から四谷通りの坂道を歩く。乗り換えて地下鉄でも行けるが、健康のために雨の日も、必ず歩くことにしている。生協食堂での早めの昼食とともに、退職後の「健康管理」に役だっている。

写真は名大のグリーンベルトから、豊田講堂を眺めたものだ。グリーンの芝生は手入れされており、心地よい緑の空間だ。四谷通りを挟んでいるが、ここには大学の門や塀がない。まさに「へーい」と言いたくもなるが、じつに開放的な大学である。こうした開かれた雰囲気が、多くのノーベル賞をもたらしたと、広報誌に書かれていたと思う。

下の写真は、「第二グリーンベルト」と呼ぶそうだが、中央図書館に向け撮ったものだ。このあたりで、コンサートなどのイベントがよく行われる。なんだか「野外劇場」のような感じだ。ここにたたずみ、人知れず屈伸運動、瞑想することも多い。

グリーンベルト突きあたりが、お世話になっている中央図書館である。図書館の前には、二つの池があり、周りの椅子に腰かける人も多い。生協食堂が休みのとき、ここでおにぎりを食べる。

図書館の正面入口には「スタバ」が営業しており、いつも賑わっている。休日などは近所の人たちが子連れ、犬連れでやってくる。図書館に「スタバ」というのが、いまの時代を示しているのだろうか。いつも「スタバ」を「すたバー」し、足早に図書館に入る。最近、「居眠り中のメガネの盗難」注意という掲示が目についた。メガネにお世話になっているので、居眠りにも注意しなくては。それにしても、度数の違うメガネを盗んで、「どすうー」のだろうか。



(2016年11月7日)